

式辞

平成27年度 入学式

太陽の光に透けて見える若葉は、筆舌に尽くしがたい美しさを放っています。私たちは毎年学校の三分の一が入れ替わる春を迎えています。出会いは常に新鮮であり、深い感動に包まれています。教職員そして在校生は、皆さんの入学が決まったときから、今日の日を心待ちにしていました。

本日は皆さんを歓迎するために、ご来賓として日頃からお世話になっている方々にご臨席いただいております。また、皆さんの保護者やご家族もこの会場での新たな出発に際し、ともに期待と感動を分かち合ってください。

このように多くの皆様の期待と祝福をいただき、前橋育英高等学校第53回入学式を挙行できますことを、教職員を代表して、心から御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、五八四名の新生の皆さん。人間が一本の樹木であるとするならば、皆さんはそれぞれが独自の色合い、異なる形を保ちつつ前橋育英という土壌で大きく葉を広げ枝をたくましくしようとしている五八四本の木です。これからの三年間、それぞれの木は土の中に深く根を張ることで、どんな風雪にも耐えることのできる樹木として高く大きく成長することでしょう。さらに学園も一体となって前橋育英と名付けられた森を育てていくことを約束いたします。

保護者の皆様。たくましさを増したお子様の背中をご覧になりながら、初めて小学校に送り出す後ろ姿がランドセルに隠れて見えなかったこと、中学生になって急に大人び、学校や友だちのこともあまり話してくれなくなったことなど、折々の記憶が脳裏に浮かんでいるのではないのでしょうか。

いずれにしても、中学までの義務教育は終了し、新たに高等学校の教育が始まります。義務教育が終了したということは「法律の定めに従って、保護者がその子どもに対し教育を受けさせなければならない期間は中学校の卒業を以て終了した」ということを意味します。温かく見守り育てられた皆様のご尽力に敬意を表すとともに、前橋育英での学びを可能にしてくださいましたことに深く感謝申し上げます。

新生の皆さん、かくして君たちは高校生として希望に向かう第一歩を踏み出したことになるわけです。とはいえ親の義務や自分たちの当然の権利としての義務教育期間は修了したのですから、働いて収入を得ることが可能だったにもかかわらず、君たち自身が「学ぶ」ということを主体的・能動的に選択したということになります。

そして今、三年間を過ごす前橋育英での生活に思いを馳せていることでしょう。多様な選択肢があり、目の前には無限とも思える可能性があります。とはいえ逆に、とてつもなく広い荒野にたった一人放り出されたような孤独感や疎外感を感じることもあるでしょう。決断し選択することの重みや、自分自身で全てを背負うことへの責任感が足を竦ませ、一步を踏み出すことができないかもしれません。失敗や挫折を恐れる気持は誰にでもあります。選択は間違ふことがあり、可能性は破れることが多いからです。正しい行動、正しい考えなのか自信が持てないこともあります。葛藤は常に付きまとい、孤独から逃げ出したいこともあるでしょう。

しかしながら、君たちが高校生となることを自ら決断し選択したという事実が変わりはあ

りません。だとすれば「諦めないこと」です。だからこそ、逃げない勇気をもつことです。

イギリスの詩人オリバー・ゴルドスミスは

「私の最大の光栄は失敗しないことではなく、失敗する度に起き上がることである」と困難の中に自己を投げ込むことの重要性、失敗から学ぶことの大きさを説いています。

二、三年生にも今年になってから幾度となく「挑む」つまり挑戦すること、失敗から逃げない勇気について話し、エールを送ってきました。失敗や困難を乗り越え、粘り強く再起することで得られた知識や経験は、その後の思考や行動の範囲を広げることにつながります。また、起き上がり再挑戦しようとする人を周囲で支え、寄り添うことも社会に生きる人間として必要なことです。君たち自身、最終的に決断したのは自分であるとはいえ、保護者や家族の全面的な支援がなければ高校入学すら叶わなかったわけですから。

冒頭、人間を一本の樹木に例えましたが、木の成長において重要な要素が太陽と水と大地であることは確かです。また、厳しい自然条件も成長を助け促すためには必要です。自らの心と体の健康を大切にするとともに大いに鍛え、学業に励んでください。新たな友と出会い、希望を語り合い、力一杯高校生活に挑んでください。前橋育英における「挑戦」の機会は君たちの前にあまねく開かれています。

君たちには入学の前から「希望」をもち、未来への夢を描こう、というエールを送り続けてきました。今、君たちの、そして前橋育英の新たなページが君たちの手によって開かれようとしています。

さあ、深く息を吸い込んで、最初の言葉を記しましょう。

「ともに希望を語ろう。諦めず挑戦する勇気をもつのだ。

希望の灯りは、進むべき道を照らす導きの星だ。」

平成 27 年 4 月 8 日
学校法人 群馬育英学園 前橋育英高等学校
校長 竹渕 敏